

201301013A

厚生労働科学研究費補助金  
政策科学総合研究事業

男性の家事参加の促進プロセス：  
mixedアプローチによる分析  
(課題番号 H24-政策-一般-007)

平成25年度総括・分担研究報告書

研究代表者 高橋 桂子

平成26 (2014) 年5月

## 謝辞

本研究の実施に際して、ヒアリング調査(研究課題 1)にご協力いただきました連合兵庫、連合鹿児島の皆様、インターネット調査(研究課題 2)にご協力いただきました 2000 名の皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 研究組織

研究代表者:高橋桂子(新潟大学人文社会・教育科学系 教授(教育学部担当))

研究分担者:黒川衣代(鳴門教育大学 教授)

研究分担者:倉元綾子(鹿児島県立短期大学 准教授)

※所属・肩書きは平成 26 年 4 月現在である。

## 交付決定額 (配分額)

平成 24 年度	直接経費 2,100 千円、間接経費 420 千円	合計 2,520 千円
平成 25 年度	直接経費 2,509 千円、間接経費 380 千円	合計 2,889 千円

---

# 目次

---

<b>第1章 はじめに (高橋桂子)</b>	<b>1</b>
1. 研究の目的、計画	1
(1) 研究の目的	1
(2) 研究の計画	1
(3) 倫理的配慮	2
<b>第2章 研究課題1 ヒアリング調査(鹿児島・兵庫):家事参加のプロセスに関する探索的ヒアリング (高橋桂子・倉元綾子・黒川衣代)</b>	<b>3</b>
1. ヒアリング調査の概要	3
2. 鹿児島調査の概要、ヒアリング録	3
3. 兵庫調査(第1回目:2013年9月)の概要、ヒアリング録	13
4. 兵庫調査(第2回目:2014年2月)の概要、ヒアリング録	18
参考1:自社HPより	25
参考2:愛知県資料	26
参考3:神戸市資料	27
資料:ヒアリング調査後の、人事部との質疑応答	28
5. ヒアリングを通して明らかになった男性の家事参加に関する仮説	29
<b>第3章 研究課題2:インターネット調査による、既婚男性の家事参加促進プロセスに関する調査の実施(全国調査、高橋桂子・黒川衣代・倉元綾子)</b>	<b>31</b>
1. 調査概要	31
(1) 第1年度の結果と修正点	31
(2) 調査設計、手続き	32
(3) 調査対象者、上限年齢の設定、調査会社の選定と実査	32
2. 単純集計結果	33
(1) フェースシート部分	33
(2) 家事に関する設問	38
(3) 配偶者の賃金労働	40
(4) 家庭科、社会教育の効果	42
(5) 意識や家計管理	44

3.	多変量解析	46
(1)	手順:2つの分析	46
(2)	分析枠組み	74
(3)	変数の作成	74
(4)	階層的回帰分析の結果	49

**第4章 研究課題3:厚生労働省「21世紀成年者縦断調査—国民の生活に関する継続調査—」  
(第1回から第9回)における男性の家事・育児参加および子どもの数に関連する要因の変遷(倉元綾子・高橋桂子)** 51

1.	はじめに	51
2.	分析サンプルの基本属性	51
(1)	年齢	52
(2)	子どもに関する変数	52
(3)	最終学歴	53
(4)	所得	54
(5)	保育・教育の費用	55
3.	家事・育児参加状況	56
4.	家事・育児参加とそれに関連する変数	58
(1)	家事・育児時間とそれに関連する変数との相関関係	58
(2)	希望する子どもの数	63
(3)	仕事に関する変数	63
(4)	子育て支援に関連する変数	70
(5)	夫妻の同居、親との同居、親からの子育て支援	72
(6)	住居に関する変数	73
4.	子ども数の増加に関連する要因	74
5.	まとめにかえて	77

**研究成果の刊行に関する一覧** 78

1.	International Sociological Association へのエントリー
2.	NCFR へのエントリー
3.	日本家庭科教育学会へのエントリー

---

# 第 1 章 はじめに

---

高橋桂子

## 1. 研究の目的、計画

### (1) 研究の目的

女性と職業の関わりを問う世論調査(2009)は「女性は子どもができて職業を続ける」が「子どもができるまで働く」を上回り、意識の上では出産後も女性が職業を続けることを支持している。しかし家事時間は3歳以下の子のいる共働き核世帯で男性49分と短く、結果として、職業をもつ女性が仕事と家事の双方に責任をもつ生活スタイルが続いている。論理的に考えると、出産後も女性が仕事を続けることを支持するなら、女性が担ってきた家事の一部を男性が分担する動きを予想させるが、統計からその動きは確認できない。なぜ、男性は家事を分担しないのか。昨今のイクメン・カジメンを勘案すれば、男性は家事を分担する意識がないのではなく、家事を分担しようという意識・意欲はあるが、それが家事の分担という直接的な行動に結びついていない、と捉えた方が真実に近いと考える。

家事分担を説明する理論は中範囲理論やエコロジカル理論(高橋 2011)を用いる研究が多いが、喫緊の研究課題は、規定要因の精緻化ではなく、どうすれば男性の行動を変容させ、家事労働へのより積極的な参加へと導くことができるのか、プロセスを解明することである。行動変容プロセスに関する理論には Theory of reasoned action (TRA;Ajzen and Fishbein 1980)やその発展系である Theory of planned behavior (TPB;Ajzen 1985)があり、リサイクル(東・西道ら 2009)、運動継続(須藤 2008)ダイエット(Lee et al. 2009)やコンドームの使用 (Marandu 2009)など、行動したら良いことはわかっているが、なかなか行動実現されにくい場面での研究に援用されることが多い。この理論を男性の家事労働に適用し、半構造化ヒアリングも行い、量的・質的研究(mixed アプローチ)で行動変容プロセスを明らかにすることが本研究の目的である。

平成24年度は、連合新潟、連合兵庫、連合徳島と連合鹿児島から協力を得て、「既婚男性の家事参加促進プロセスに関する調査」を実施するとともに、適宜、男性の家事参加に関するヒアリング調査を行った(継続)。今年度は1年目の成果を基に調査票項目など適宜改良し、インターネット調査による全国調査を行うとともに、分析結果は国内外の学会で漸次、発表を行い、研究者たちとの意見交換を密に行う。

### (2) 研究の計画

研究課題 1 ヒアリング調査の継続(鹿児島、兵庫)	高橋・黒川・倉元
研究課題 2 インターネット調査による全国調査の年	高橋・黒川・倉元
研究課題 3 「21世紀成年者縦断調査」(継続)	倉元・高橋
(研究課題 4 Family Life Education 示唆への検討	高橋・黒川・倉元)

### ① 研究課題1 ヒアリング調査の継続（鹿児島、兵庫）

平成24年度アンケート調査で、ヒアリング調査に応じて良いとの連絡をいただいた方を中心に、随時、ヒアリング調査を実施する。積み残しとなっている鹿児島、兵庫と徳島、である。連合兵庫は高橋と黒川が、連合徳島は黒川が、そして連合鹿児島は倉元が担当する。

### ② 研究課題2 インターネット調査による全国調査の年

平成25年度は、平成24年度の各地域によるアンケート調査結果やこれまでの半構造化ヒアリング調査の結果を踏まえて、必要に応じて調査項目や尺度を再検討した後、全国調査を実施する。手法はインターネット調査である（委託費計上）。世代やライフコース別の検討を行う目的で、調査対象者は上限を設定し（39、44、または49歳以下）、既婚、雇用労働者として働く、配偶者と子供が同居している男性である。平成24年度のアンケート調査が新潟、兵庫、徳島と鹿児島と、地方都市に偏ったものであったので、インターネット調査では、都市部を含めた、人口分布が全国分布により近くなるよう抽出する（例：首都圏25%・阪神中京25%・その他50%、もしくは首都圏50%・その他50%など）。予定標本数は2,000～3,000を予定している。

インターネット調査会社からエクセル形式で入手するデータは、高橋がSPSS用に加工・編集して黒川・倉元に渡す。単純集計は大学院生が行う（人件費計上）。各自、問題関心に基づいて分析を行い、研究会を開催（東京開催、会場借料&旅費計上）しながら、連名/単独で学会発表する（旅費・学会参加費計上）。具体的には日本家族社会学会、Family Life Education に詳しいNCFR(National Council on Family Relations、アメリカ)や国際家政学会(次回は2016年度/4年に1度開催)などである。

### ③ 研究課題3 「21世紀成年者縦断調査」(継続)

データをプールして、夫の家事参加がどのように変化しているか、夫の家事育児参加に影響を与える要因、妻の側の要因との関係について分析を行うとともに、夫の家事参加に関連する要因、子ども数の増加に関連する要因の時間的変化を明らかにする。

### ④ 研究課題4 Family Life Education 示唆への検討

可能であれば、検討する。

なお、分析結果の検討や、本研究結果を地方行政現場、Family Life Education にどう活かすのかなど政策提言に関しては、2回予定されている研究会の他にも、ネット会議もしくは同じ学会等に参加した時に時間を作って検討する。

## (3) 倫理的配慮

本研究は、アンケート調査とヒアリング調査から構成される。頑健な分析を行うためには、家族構成や年齢など経済変数が必要になる。したがって、回答者のプライバシー確保には十分な配慮を行う。得られたデータは純粋に学術的な目的にのみ使用し、回答者名が外部に漏れることがないように、十分注意する。データ・クリーニングが終了した時点で、アンケート調査用紙はシュレダーにかけて廃棄処分する。また、アンケート調査・ヒアリング調査ともに参加協力依頼の時点で研究趣旨を書面で伝え、ヒアリング調査ではインタビュー時にも再度、趣旨を説明する。この際、テープによる記録、結果の公表についても逐次、了承を得るなど手続き面は慎重に進めていく。

## 第2章 研究課題1 ヒアリング調査(鹿児島・兵庫):家事参加のプロセスに関する探索的ヒアリング

高橋桂子・倉元綾子・黒川衣代

### 1. ヒアリング調査の概要

2014年度は、9月と3月に鹿児島(計8名)、9月と年明け2月に兵庫でヒアリング調査(9月:5名、2月:4名、計12名)の、合計20名に実施した。2月の兵庫調査では、9月ヒアリングで話題にのぼった企業所内保育所の視察(1ヶ所)も行った。そのヒアリング概要をここに記す。なお、個人が特定される氏名、企業名などは平成24年度報告書同様、すべて仮名にしている。

### 2. 鹿児島調査の概要、ヒアリング録

日時:2013年9月9-10日、2014年3月3-4日

参加者:倉元綾子、高橋桂子

ヒアリング対象者:8名

#### 鹿児島でのヒアリング調査概要

NO	日にち	曜	時間	最寄り駅/待ち合わせ場所
1	9月9日	月	1400-1900	連合鹿児島・事務所
2				
3				
4				
5	9月10日	火	1000-1200	鹿児島県立短期大学 倉元研究室内
6	9月10日	火	1800-1930	JR鹿児島中央駅 アパホテルロビー
7	3月3日	月	1000-1100	鹿児島県立短期大学 A氏研究室内
8	3月4日	火	1000-1100	鹿児島県立短期大学 K氏研究室内

#### ① H氏

2013年9月9日(月)、連合鹿児島・事務所

聞き手:倉元綾子(文責)、高橋桂子

属性

- 53歳、連合鹿児島。種子島出身、労働組合役員。
- 家族は妻(53歳・専業主婦・元看護師で結婚出産退職。パートタイムで4年(子どもは保育園)、その後、専業主婦。現在は役所の保健センターで週3回程度、勤務)、娘(27歳:保育園(4歳から小学校入学まで)、息子(26歳・独立・正職員・仕事継続)と息子(15歳)。

- ・ 種子島から鹿児島に転勤になったとき、最初の半年は家族を種子島において、単身赴任をしていたが、末子の高校進学とともに、家族全員で鹿児島に移住してきた。妻の実家は、漁業8、農業2の生活。

#### 家事分担

- ・ 料理や買い物は「苦にならない」。洗いものは「苦」。洗濯物は週一回、干すくらいだ(多忙のため)。
- ・ 鹿児島市での最初半年の単身赴任のときは、「家事は大変だった」。家事といっても、洗濯は問題ないが、食事が大変だった。そうじすることは「考えなかった」。
- ・ 現在、作ることができる料理は「カレーライス、大鍋料理(豚汁など)」これは「味見をしながら作る。濃い味になりがち」。その他、「親子どんぶり、肉じゃがどんぶり、目玉焼きどんぶり」など。共通して「おかずをごはんに乗せる」もの。

#### 料理についての知識・技術

- ・ 簡単な料理(鍋のタレなど)を教わりたい。後は、テレビ料理番組を見ている。

#### 家計管理

- ・ 公共料金は、夫の通帳から引き落とし。生活費は、一定額を妻に渡している。わずらわしい。
- ・ 家を3軒、管理しており、水道、電気など、結構かかる。そのため、節約が気になり。「必要なものを必要な時だけ購入する」。乾燥機付き洗濯機も便利だが、妻が節約家で購入していない。鹿児島に来てからは買い物にお金がかかる。

#### 家事分担、きっかけ

- ・ 家族歴、父母・・・父は目が不自由、鍼灸師、職場と家が近かったが、親が不在であることが多かった。子供ながら、しなければならないことがあり、していた。

#### 近所づきあい

- ・ 種子島ではまめにしていた。他の役員は全員退職者だった。若いから頼りにされた。

#### 家庭科教育

- ・ 小学校でほうれん草のソテーやボタン付けをした記憶がある。

#### 今後の生活設計

- ・ 条件が整えば早くリタイアし、自給自足の生活をしたい。夢は五右衛門風呂を作ること。

#### 種子島について

- ・ 移住者のため、定住住宅が作られている。定住したい人...一所懸命、サーフィンで移住

#### 家事とは

- ・ 放っておいても生きてはいけるが、「やらなければならないこと」。自分はあまり得意ではないが。

## ② O氏

2013年9月9日(月)、連合鹿児島・事務所

聞き手:倉元綾子(文責)、高橋桂子



## 属性

- ・ 25歳、鹿児島市。霧島市自治労から連合鹿児島へ。派遣、専従。
- ・ 家族は妻(29歳・専業主婦...自分は「働いてもらいたい」と思っている)と娘2歳2カ月の核家族。父、母、姉は鹿児島市内で自宅から徒歩5分の距離。週2、3回訪問している。妻の実家にも、月2回程度、訪問している。
- ・ 実家ではトマトを作っている。父(59歳)は九州男児で「子どものおむつを替えたことはない。」

## 家事分担

- ・ 週2回 食後の皿洗い、燃えるゴミ捨て
- ・ 洗濯もの...たたむ(干さないが...)
- ・ 掃除...月1回、家の中、子どもが手伝う、掃除機
- ・ 料理...妻の体調が悪い時、子どもに手がかかる時だけやっている(朝食は週2でパン、週3でご飯)
- ・ 風呂掃除...妻
- ・ おもちの片づけ...子どもと夫
- ・ 作ることができる料理:カレー(ゴツゴツしたカレー)、野菜炒め(肉、野菜、大きめ)や餃子。

## 生活時間

- 19時前...帰宅、風呂
- 20時... 夕食、皿洗い
- 21時... 実家に遊びに行く。

## 家計管理

- ・ 夫。生活費を妻に渡している。

## 家事分担のきっかけ

- ・ 妻に「ありがとう」と言われたい。喜ぶ姿が見たい。(野球部でキャッチャーをしていた(中学、高校、大学、社会人)ので周囲に対して「気配り」ができると思う。家事をしているのも、そこから来ているかもしれない)。
- ・ 一人暮らし...2年くらい

## 家庭科教育

- ・ ケーキなど作った。男女役割分担についても学習した。「肉じゃが」は学校で教えてほしいメニューだ。

## 育児休業・産休

- ・ 2人目の子どものとき、考えたが、とるのが難しい。配偶者産休は5日間取得した。

## 家事とは

- ・ 大変なもの。主夫をやっても良い。家事や子育ては妻がしているが、妻の料理が「おいしい」(義父は調理師)。子育ては、妻や子どもと仲よくしたい。

### ③ K氏

2013年9月9日(月)、連合鹿児島・事務所

聞き手:倉元綾子(文責)、高橋桂子

#### 属性

- ・ 40歳、銀行員、1995年に就職。2000年に結婚
- ・ 家族は妻(42歳・同業・監督職、新幹線通勤(15分))、長男(小6)と長女(小1)の核家族。

#### 自分と家族の歴史

- ・ 南さつま市生まれ(川辺郡笠沙、大浦)、中学は大浦中。両親は共働き(父:タクシー運転手、母:保育園園長)だった。妻の両親が南さつま市(旧加世田市)にすんでいた。
- ・ 18歳から、鹿児島市で一人暮らし(10人)→鹿児島国際大学に進学。卒業後、金融機関に就職(3年くらいずつで転勤を繰り返している:鹿児島市→奄美大島(結婚)→加治木→川内→鹿児島市)
- ・ 居住地による勤務地限定制度がある。申請。未就学児を持つ母親には配慮している。
- ・ 2013年7月(40歳)でマンション購入。持ち分は自分が4分の3、妻が4分の1。子どもを転校させたくなかったので近所で購入した。
- ・ 妻...働けるうちは働いてほしい。対等な感じ。同じ立場で働いているし、妻は働くのが好き。妻は正社員で働いているが、子が小学校に上がるまでは自分の両親や妻の母が面倒を見た。

#### 家事分担

- ・ 食事作りは先に帰った方が家事をやる。妻、通勤、遠い。特に決めたわけではないが。
- ・ 皿洗い...夫、食器洗浄機を今年購入
- ・ 米を洗う...夫、妻の実家の米
- ・ 洗濯...夫、妻
- ・ ゴミ出し...夫
- ・ 風呂掃除...子ども、夫
- ・ 掃除機...妻、土日
- ・ 料理...ご飯、みそ汁、目玉焼き、肉を焼く、野菜、チャーハン

#### 家計管理

- ・ ローンや公共料金は夫。食費は妻。3つ目の口座で管理

#### 家事分担のきっかけ

- ・ 軟式野球、キャンプ

#### 家事とは

- ・ 家事...日常のこと。明日のため、毎日のため。家事は退屈ではない。

#### 家事は誰のためか

- ・ 状況による。自分のため、家族のため。

#### 家庭科教育

- ・ 調理実習で、ご飯、みそ汁、ゆで卵をつくった。

#### ④ N氏

2013年9月9日(月)、連合鹿児島・事務所

聞き手: 倉元綾子(文責)、高橋桂子

##### 属性

- ・ 鹿児島市生まれ、1963年生まれの50歳、電信電話関係に就職。1995年(平7)結婚。
- ・ 家族は妻(52歳、建設会社勤務(臨時、埋め立て工場、現場事務所)、長男(高校2年生)、長女(高校1年生)。息子はきれい好きで、娘は料理やケーキ作りに関心がある。バレンタインのチョコ(友チョコ)を作っていた。2002年(平14) 自宅を建てた。

##### 自分と家族の歴史

- ・ 1981年 18歳 電信電話関係就職
- ・ 1992年(平4)総務人事系、育成担当(新入社員、在籍社員とも)
- ・ 1995年(平7)経理
- ・ 2001年(平13)法人営業部
- ・ 2002年(平14)システムエンジニア、設計
- ・ 2007年(平19)料金センター、通話明細
- ・ 2012年(平24)光回線敷設事業、現在にいたる

##### 家事分担

- ・ 料理、洗濯・・・大好き、創意工夫ができる。
- ・ 風呂掃除、車の掃除、洗たく、片付け・・・自分でする。
- ・ 掃除・・・苦手
- ・ 服装・・・おしゃれに関心・こだわりがある。アイビースタイルが好き。靴はリーガル・シューズ。

##### 料理

- ・ 漫画「おいしんぼ」に影響を受けた。料理をするのは苦にならない、好き。おいしいものを作りたい。食材を生かしたい。炒めもの、手の込んだ料理を作ることができる。餃子(150個くらい作って、パーティをする。1.5kg)。ちらし寿司(寿司酢を常備している)、天ぷら、カレー、おでん、お好み焼き。釣りをする(平成13年から、鹿児島県南さつま市・野間池)ので、釣った魚は自分でさばく。弁当は妻が作ってくれる。

##### 家計管理

- ・ 妻と相談しながらしている。ローン支払はエクセルを利用し、マクロを組んで、計画的に支払っている。クレジットカードは、別口座を作成して、振り込んでいる。Edy、T-pointを使っている。自称「ママ男」だ。

##### 家事分担のきっかけ

- ・ 母子家庭で育ち、同居していた祖母は、自分が小学校3年の時、亡くなった。母は夜、仕事をしていたので、中学の頃から、ある程度、自分でやれるようになった。

##### 家事とは

- ・ 終わりのない仕事。必ずしなければならない。労力がいる。根性がある。息子にも「やるよ  
うに」言っている。理想はフィフティ・フィフティ、対等にやること。男女平等にやることが求  
められる。

#### ⑤ T氏

2013年9月10日(火) 10-12時

場所:鹿児島県立短大・栄養化学研究室

聞き手:倉元綾子(文責)、高橋桂子

#### 属性

- ・ 40歳 鹿児島県立短大 助教。家族構成は妻、長男(小6)と次男(小2)

#### 個人史

- ・ 高校ではバスケットボールをしていた。鹿児島大学・農学部・家畜栄養卒業。食事の好き  
嫌いはない。実は、高校入試に失敗したら、料理に関する仕事をするために専門学校に  
進学しても良いと思っていた。和洋中、沢山の食材を扱いたいと思っていた。料理への関  
心の原点は不明だが、あこがれがあった。

#### 実家での食の経験

- ・ 母の料理は苦手だった。父親や兄は大食漢だが、自分は食が細い。「食べものを無駄に  
できない」という感じていなかった。思っていなかった。(今は違う。)

#### 家事分担

- ・ 庭掃除、掃除・・・自分
- ・ 風呂掃除・・・子どもたち
- ・ 洗濯もの・・・各自が自分でかたづける(妻の実家〈共働き〉のルールが影響している。)
- ・ 趣味は釣り、魚をさばく。小1くらいから、漫画「釣り吉三平」の影響
- ・ 朝食は長男と一緒に。メニューは、スクランブルエッグ、卵焼き、ウインナ、レタス、トマト、きゅ  
うりとパン。実は、家庭菜園(10平方メートル、3600円/年、借用期間:10年)で野菜をつく  
っている。

#### 家計管理

- ・ 妻が管理している小遣い制だ。通販は、使わない。

#### 家事分担のきっかけ

- ・ 大学入学後(鹿児島大学・農学部・家畜栄養)、食べることで変化した。(母親・・・変った  
ね。)食わずぎらいだったが、キャンプ、バーベキュー、ダッチオーブン。家事をやること  
で、見た目がきれい、爽快になる、うまく快適にやりたい。

#### 家事は誰のため

- ・ 家族があるから、やることができる。普段の生活をしていく上で、家族は大きい存在。

#### 家事とは

- ・ 子ども、家族にかかわることができる。できるように努力する。

#### 家庭科教育

- ・ 料理に関心はあった。包丁・・・なぜ、すごい！と思った。目玉焼き・・・まん中にこんもりと黄身がもりあがっている。エプロン・・・ミシン、ししゅう、編み物・・・簡易編み機

## ⑥ M氏

2013年9月10日(火) 19-20時

場所: アパホテル鹿児島中央駅前・ロビー

聞き手: 倉元綾子(文責)、高橋桂子

### 基本属性

- ・ 34歳 九州電力。社宅。職場まで通勤時間60分(自宅から駅、原付バイクで20分、新幹線15分、駅から15分)。さつま川内市生まれ・育ち、結婚までは実家(母、弟、妹;母は専業主婦)。母は福岡生まれ、男尊女卑はダメだと考えていた。妻の実家では、義母がリードしている。
- ・ 家族構成は妻(保育士)、長女(2歳10か月)と次女(3か月)の4人家族。

### 家事分担

- ・ ふとんのあげおろし、皿洗い、掃除、ゴミだし、アイロンかけ、風呂・・・自分
- ・ 洗たく、トイレ掃除・・・手のあいた方
- ・ 料理・・・妻
- ・ 小学校2年の時、卵焼き、ラーメンを作った。

### 家計管理

- ・ 妻、小遣い制

### 夫婦関係

- ・ 交際していたときから、何でも話し合うようにしている。時間をかけて、言葉で伝えあうこと。理論(男)、感情(女)

### 家事分担のきっかけ

- ・ 自分の家庭のポリシー、ベクトルを守りたい。ヘルプを頼むけれども、同世代の同僚も皆やっている。(会社は従業員105人のうち、女性8人)。家庭・・・元気というのは大切なこと。

### 家事は誰のためか

- ・ 家族のため。合理的、効率的に。母の影響が大きい。

### 家事はどういうものか

- ・ しなければいけない。できることならしないでもよい。つまらないとは思わない。

### 家庭科教育

- ・ 高校では、エプロンを作った。先生は、口うるさいお婆さんという感じだった。
- ・ 料理・・・できた方が良くと思う。実家にいたので興味がなかった。しなくてもよかった。
- ・ 保育について、学んでおけばよかったと思う。

## ⑦ S氏

2014年3月3日(月) 鹿児島県立短期大学・研究室

聞き手 倉元綾子(文責)

### 基本属性

- ・ 1975年生まれ、38歳。現鹿児島県立短期大学・生活科学科・助教

### 家族構成

- ・ 妻(38歳・元薬剤師)、長男(2歳)、次男(4か月)の4人家族。出身は広島と名古屋(妻)。

### 個人史・家族史

- ・ 2002年 大学院修士課程修了、民間会社勤務
- ・ 2008年 愛知県の私立4年制大学で非常勤助手
- ・ 2009年 鹿児島県立短期大学助教(4月には6年目になる)、結婚

### 家事分担

- ・ 17:30 帰宅、夕食の準備手伝い。鍋を振る料理に関しては、自分の担当。
- ・ 18:00 夕食 子どもの食事の介助。「15分」をすぎると子どもがぐずり始めるので、食事時間は短め。
- ・ 18:15 食事の片づけ(妻)。自分は、下の子どもを負い紐で負ぶって、風呂の準備をする。風呂が沸いたら、上の子と先に入る。途中で下の子を入れて、出す。本人と上の子が出る。妻は最後になる。洗いのや下の子の風呂前後の世話は妻。
- ・ 18:45 子どもの世話・・・自分は子どもの服を着せる。歯磨きをさせ、仕上げる。妻は、下の子の授乳、寝かしつける。
- ・ 19:30 上の子を寝かしつける。添い寝はしないけれども、同じ部屋で寝る。絵本を読む。現在は『ぐりとぐら』。本は購入。
- ・ 20:00 子どもを一人で寝かせる。すぐには寝ないので、灯りをつけ、戸を開けておく。その後、自分は洗濯もの干し。下の子(赤ちゃん)の洗濯ものは、妻にまかせている。そのため、洗濯は妻がすることになる。自分の仕事がある時は、職場に戻る。

### 家事分担・得意なもの

- ・ 片付け。料理は麺類。パスタ類など。中華料理を作ることができる。鍋を振る料理。にんにく、生姜を利かす料理。あんかけ。マーボ豆腐。チャーハンなどが得意料理。きゅうりを入れたチャーハンを作ったりする。味が濃くなりがちなので、現在は子どもが小さいため、作っていない。そのうち、作ることになるかもしれない。

### 家計管理

- ・ 自分の口座から、水光熱費など、公共料金が引き落とされる。細かくはないが、なんとかやっつけている。妻に、カードと一定の額の生活費(現金)を渡している。日常生活に必要なものを購入。買物は近くのスーパーや生協です。オムツ(箱)はアマゾンで購入し、配達してもらっている。安いし便利である。
- ・ 妻は結婚前、薬剤師として、約10年、働いていた。貯えを比較的たくさん持っている。自分の稼ぎはたいしたことにならない、と分かっている(?)。

#### 家事分担のきっかけ

- ・ 結婚するまで、もともと、全部自分でやってきたので、主導権を持ってやっていると思う。
- ・ 現在は、少し、妻に移っている。

#### 家事分担による変化

- ・ 大学入学後、1993年ー2002年
- ・ 18歳のときから一人暮らしを始めて、やむをえずやることになった。母親からレシピを渡されたような気がする。凝ったことはしないが、料理もする。時間さえあれば、自分で何でもできる。
- ・ 一人暮らしを始めてから、掃除、洗たくはどのようにでもなることがわかった。食事に関しては、自炊するというより、「外食するときは野菜を食べよう」とした。自分でそう考えた。果物を食べなくなった。定期的には買わなくなった。

#### 大学院修了後、会社勤めのとき、共同生活(2002年～2008年の6年間)

- ・ 同窓生と家を借りて、共同生活をした。3人暮らし(4人のときも)、男性だけ。家事分担をした。掃除、ゴミ出し、ご飯炊き。料理の係りはなかった。

#### 結婚し、子どもを持って

- ・ 果物(りんご、バナナ、みかんなど)を買うようになった。
- ・ 子どもがいるので、以前より、清潔に気を使うようになった。
- ・ 掃除をこまめにし、布団干しもする。

#### 家事は誰のためか

- ・ 子どものため。

#### 家事とは

- ・ 義務。できればやりたくない。

#### 家庭科教育

- ・ 男女別々だった。技術科。しかし、技術科の時間に、座学で「魚のムニエル」を教えられた。印象に残っている。

#### 家庭科教育への期待・要望

- ・ 高校を卒業して実家を離れる前に、料理を習うことができたらよかったと思う。

### ⑧ K氏

2014年3月4日(火) 鹿児島県立短大・研究室内

聞き手 倉元綾子(文責)

#### 基本属性

- ・ 1981年生まれ・32歳、現鹿児島県立短期大学・生活科学科・生活科学専攻 助教

#### 家族構成

- ・ 妻(1982年生まれ・31歳)と息子(2011年12月生まれ・2歳)の核家族。

- ・ 妻は、日大理工学部・大学院-->設計事務所->日大で助手、教員扱いではない-->出産を契機に退職。最近、インテリア・コーディネーターの資格を取得。ママ友もいる。地域の方々が気軽に声をかけてくれる。子育てはしやすいと思う。
- ・ (息子さんが2013年7月にもう一人生まれる予定。)

#### 個人史・家族史

- ・ 1981年 石川県生まれ
- ・ 1985年～ 兵庫県神戸市 父親の転勤による
- ・ 2001年～ 京都工芸繊維大
- ・ 2005年～ 東京の広告代理店に勤務(デザイナー)、仕事は管理的仕事、デザイナーとの窓口、指示、広告業界が傾きつつあった。
- ・ 2007年～ 独立し、個人でデザインをする。自分で作りたかった。元の会社から仕事を回してもらった。特に生活が苦しいということはない。
- ・ 2010年～ 横浜美術大学・ビジュアルデザイン・助手。5年任期。次の仕事先を一所懸命探し、多数応募した。
- ・ 2011年 結婚(3月13日、東日本大震災の2日後、震災をめぐる状況が不明だったので結婚式をやる事ができた。)
- ・ 2012年 鹿児島県立短大に着任

#### 子どものころ、家事

- ・ 男だけの2人兄弟。服を脱ぎっぱなしなどわんぱくな男の子たちだった。すべて母親がやってくれていた。家事の分担はしていなかった。ただし、食後の茶碗は運んだ。外食や中食で栄養に気を使うのは、母親の影響。気をつけてくれていた。

#### 一人暮らしの経験

- ・ 2001年～2011年 大学入学後、結婚するまで。最低限のことだけをやっていた。具体的には、洗濯物はためて一気に回す、掃除は、汚くなってきたらやった。後は寝るだけ。裁縫セットも持っていなかった。
- ・ 食事・・・外食、中食。朝食は食べていなかった。好き嫌いはない。栄養的なことを少しは意識し、野菜サラダ、お浸しなど、野菜をとるようにした。焼きそばは、短期間で使いきれ的分だけ購入して自分で作った。
- ・ 2007年～ 独立して家で仕事をしていたので、規則正しく洗濯、掃除をしていた。生活のリズムを作る必要があった。

#### 家事分担

- ・ 7:00 起床・朝食。ふとんあげ、掃除機かけ、洗濯物干し(時間がある時に、妻と半々でやっている)。ゴミ捨て(外でタバコを吸う。タバコは家の中では吸わない。)朝食作りは妻。自分は料理は得意でないから。そして出勤
- ・ 18:30 夕食。食後に、子どもと遊ぶ。妻は食事片付け、洗濯物たたみなどしている。
- ・ 20:00 風呂、子どもと一緒に。
- ・ 21:00 子どもを寝かす。(お風呂と一緒に入った方が寝かすようにしている。)就寝。



#### 金銭管理

- ・ 妻。自分は小遣い制(1万円/月、必要な都度申請、実質2~3万円)。自分の「副収入」を小遣いにあてるようにしている。自分が1万円でよい、と言った。

#### 家事を分担している理由・きっかけ

- ・ 妻は朝から晩まで子どもと向き合っているから、自分は朝夕、休日などに家で子どもをみるようにしている。それは、家事はやるものだ、やるのは当然のことと思っていた。時代が変化していると思う。結婚後は、料理以外のことは、やろうと思った。父親も家事をやる。皿洗い、掃除機かけなど。男尊女卑でない。(子育てが終わって独立したので、父と母の夫婦関係に変化があるのかもしれない。)

#### 家事(分担)で変わったこと

- ・ 一人暮らしをして、家事(をやってくれる人)のありがたみがよくわかった。自分でやらなければならない。料理をしてくれるのは、ありがたい。自分ができないことをやってくれる。

#### 家事は誰のためか

- ・ 自分のため、家族のためか。特に、考えているわけではない。

#### 家事は自分にとって

- ・ 当り前のこと、仕事と同じ。特に意識していない。

#### 30代の人々の家事への意識

- ・ 時代の変化。お金を稼ぎにくい。働けばそれだけ給料が上がるという時代ではないし、仕事ばかりしてられない。

#### 家庭科教育

- ・ あまり印象に残っていない。受験科目ではない。何でやるのか。
- ・ 小学校では、ボタンつけや包丁使い。中学校では、男女一緒に。弁当作りなどしていた。先生が変わっていた。そして高校では、マドレーヌを作ったが、うまく膨らまなかった。
- ・ 家庭科は、受験科目でないから「何でやるのか」と思っていた。楽をした。たくさん実習をやった。勉強しなかったので、赤点をとった。

#### 家庭科教育への要望

- ・ 家庭での教育が基本・・・家庭科(週一回)は家庭とのつながりで進める方がよい。授業と家庭生活のセットにしたらどうか。

### 3. 兵庫調査(第1回目:2013年9月)の概要、ヒアリング録

日時:2013年9月18-19日

参加者:高橋桂子、黒川衣代

ヒアリング対象者:5名

## 兵庫ヒアリングスケジュール

NO	日にち	曜	時間	最寄り駅/待ち合わせ場所
1	9月18日	水	1430-1600	JR三田駅 キッピーモール6階(まちづくり協働センター)
2	9月18日	水	1800-	JR舞子駅 シーサイドホテル舞子ビラ神戸ロビー
3	9月19日	木	1000-1130	西神中央駅 職場(高塚台)
4	9月19日	木	1300-1430	西神中央駅 職場(高塚台)
5	9月19日	木	1500-1630	西神中央駅 サイゼリア西神中央

### ① N氏

日時:2013年9月18日(木)18:15~19:45  
 場所:シーサイドホテル舞子ビラ神戸、1階ロビー  
 ヒアリング:高橋桂子(文責)、黒川衣代

#### 基本的属性

奈良県出身 35歳。東北大学修士課程卒業。仕事はエンジンを作る仕事で、勤務時間は8:30~17:30。

妻(見合い結婚、32歳)は神戸大学卒。現在、医薬系で働いている。

見合い結婚。見合い相手に対する要望として「働いている人がいい」

子どもは生まれたばかり(生後1ヶ月)で、現在、妻の実家。妻は半年育児休業する予定。実家は生駒山。母親は「箱入り娘」。男ばかり三人兄弟の長男。次男は既婚・妻専業主婦、三男は独身。

#### キーワード

「fifty fifty で何でもやっていきたい」、「夫婦間でバランスが悪いのは良くないと思う」

#### 家事関与の実際:

料理:日常は「嫁」、週末は時々つくる。魚つったりさばいたりする

片付け:食洗機

洗濯:半々か。全自動洗濯機、干してたたむ。

掃除:「部屋が汚いのが嫌」(→要求水準説)

風呂:髪の毛をとったりする

洗面所:洗う

床:ぞうきんもかける

アイロンかけ:する→「部屋が汚いとダラしない」

家事分担は話し合って決めたか?

結婚当初、話しあった。嫁さんはテキパキ動き、表面的に満遍なく対処できるタイプだ。しかし「分担」という形で負担を明確にすると、仕事で疲れて風呂掃除をしていないとき「風呂掃除やってくれた？」といわれてケンカになった。そこで、「分担」を決めるというよりは「最後に風呂にはいったものが掃除する」というように変えた。負担を均等というより、ざっくりと「半々でやれば良いと思う」

#### 大学に進学するときに、母親などから料理など習ったか？

あまり記憶にない。必要なものを少し。大学では3年生からスターバックスでバイトしたが・・・

#### 家計の分担はどうなっているか？

自分に浪費癖があるので、自分の給与を嫁に渡し、管理してもらっている。小遣い制。キャッシュカードで自由に引き出せる小遣いは月2万円程度。

家計に関しては、結婚して1年たったとき「保険アドバイザー」に相談して、積立保険など見直した。無料で相談できるので、何人かに相談した。

#### 「fifty fifty で、何でもやっていきたい」。

なぜ？「夫婦でバランスが悪いのって良くないと思って」。お見合いのときも「働いている女性が良い」といった。お互い、fifty fifty でやりたいと思ったから。

#### 学校教育との関連について

中学校で、多分、カレーを作った。家庭科は嫌いじゃなかった。息抜き科目だったかな。高校は私立だったが、裁縫が苦手だったので「母親にやってもらった」

#### 家事を「より効率的にやろう」と思っている。

自分の時間がほしいから。それは、自分の時間が欲しいから。趣味はランニング。学生時代、自転車部に属していた。富士登山レースに出場した。トレーニングは土日。早朝6時に起きてトレーニングをしている。夫が趣味をもっていることが大事。趣味があれば、工夫して効率よく料理でもやろうと思うはず。

同時に、家に快適性を求めている。自分にとっては家庭がまずあってその上に仕事がある

#### 家事とは何か

義務的なもの、効率よくやりたいもの。「つまらないとか退屈とは思わない」。(「家事をしない夫婦は破綻する」・・・)

#### ※メモ転記

35歳頃までが家庭科男女共修・同一カリキュラム、共働き世帯世代で「家族モデル」。それより上の世代は「教育モデル」

## ② S氏

日時:2013年9月19日(木)10:00~11:30

場所:P社職場(高塚台)事務所、3階

ヒアリング:高橋桂子(文責)、黒川衣代

### 基本的属性

広島大学卒の48歳。「最強のパートナー」である妻(山口大学卒)は48歳で共働きの家庭出身の女性。大手情報サービスを退社。現在は息子たちの塾費用もあり、奈良の大学院で実験助手のアルバイトしている。

子どもは2人(長男:高1、次男:中3)、妻と子どもは奈良県在住で現在「単身赴任3年目」(5年くらいといわれている)。

大手電機メーカー勤務の転勤族の両親のもとで育った。母親は専業主婦で弟が1人いる。父は福岡→長崎→福岡→大分→大阪と異動。転勤が多かったため、自分は全寮制の私立中学を受験させられ、寮生活を送った。寮は4人部屋。そのとき同室だった友達とは現在でも「損得なく動ける仲間」だ。

### 単身赴任の生活スタイル

金曜日夜もしくは土曜朝、帰り、月曜06:04発で大阪に向かう。片道2.5時間。片道2.5時間なら奈良から大阪に通勤することも不可能ではないが、夜、組合のつきあいがあるし、週1で草津(滋賀県)にも行くので、単身赴任を選択した。

### 家事

料理:高校時代;パスタで明太子パスタ、簡単だったし作ると友達も喜んでくれた。納豆スパ、高菜スパなど。トッピングにこった。ラザニアも感動した。作ってみようということで、トースターで作った。広大は、一般教育は広島市内キャンパスだが、専門教育は東広島キャンパス。大学時代は風呂なし学内寮、月額4200円だった。共同キッチン。その後、風呂なし一軒家をかりた。2階は、社会人がすんでいた。1階は8畳と4畳だったか。月額1.6万円だった。料理は陳健民、陳健一の中華など、本で独学した。中華鍋を「クロワッサンの店」に買って購入した。「男は道具からはいる」。オイスター料理などにこった。

奈良に戻ったときは、土曜午前、近所の生駒市商店街でローストビーフ用の肉など買い出しをしている。必要な食材は配偶者とメールで連絡をとって、買い出している。野菜スープもにんじん、ジャガイモ、セロリ、カボチャ、ベーコンなどをいれて作る。中3の次男はジャガイモの皮をむいたりするが、長男は料理にあまり関心がない。

片付けは、嫁がブツブツいうのでやる。「閾値」がある(黒川衣代先生)。それを感じて、やっている。

料理した鍋は、洗ってから食事をするタイプ。子どもたちに「手伝え」といえば、皿をさげてはいる。